

視聴覚教育時報

No.737 2023年 4月号

contents

- ▽令和5年度 「第1回全視連常任理事会」を文書により実施
- ▽令和5年度 視聴覚ライブラリー所有の視聴覚教材の移管や廃棄について
- ▽令和5年度 全視連「視聴覚教育功労者表彰」の推薦について
- ▽令和5年度 専門委員について
- ▽「視聴覚センター・ライブラリー一覧〈令和4年度版〉」を読む
—視聴覚センター・ライブラリーの現況と傾向—
- ▽2/28 視聴覚センター・ライブラリー担当者研修会を実施
- ▽えすけーぶ

▽令和5年度 「第1回全視連常任理事会」を文書により実施

全視連の第1回常任理事会が去る4月11日付けの文書により実施されました。昨年同様に文書による承認に代えることといたしました。議案については4月19日を期限として審議・回答をいただき、すべての常任理事の方々より承認いただきました。審議いただいた議案は下記の通りです。

- 第1号議案 令和4年度事業報告書（案）
- 第2号議案 令和4年度収支決算書（案）

- 第3号議案 令和5年度事業計画書（案）
- 第4号議案 令和5年度収支予算書（案）

なお、これらの議案については、決算報告の監査を経て、5月に各加盟団体の理事宛に第1回文書理事会として提出され、審議いただくことになっています。

▽令和5年度 視聴覚ライブラリー所有の視聴覚教材の移管や廃棄について

組織の統廃合や視聴覚教材の老朽化等により、他の教育施設へ教材を移管したり、廃棄処分を行うこととなります。昭和61年に、映像教材の権利者団体（(公社)映像文化製作

者連盟：以下映文連）と全視連が「映画の著作物の複製物の貸与に係わる補償金の扱いについて」の覚書きを取り交わしましたが、その後の双方の話し合いにおいて、ライブラリ

ーが保有する映像教材を移管または廃棄する場合は、平成 23 年度以降より、権利者団体に通知することとなり、今年度で 13 年目を迎えました。

視聴覚教材（フィルム・テープ・ディスク）を、施設の統合や廃止に伴い他教育施設に移管する場合、または廃棄処分しようとする場合、その視聴覚教材の作品名などを「視聴覚教材の移管届け」「視聴覚教材の廃棄届け」に記入し、

関係書類一式ダウンロード

http://www.zenshi.jp/files/ikan_haiki_2023.zip

加盟団体を通じ当連盟に提出し、当連盟が映文連にそれらを通知します。

<提出対象年度>

令和5年度間（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

※届け出書式は下記の全視連HPよりダウンロード可。

▽令和5年度 全視連「視聴覚教育功労者表彰」の推薦について

例年実施している全視連の「視聴覚教育功労者表彰」制度も本年度で第 26 回を数えることとなりました。4 月 3 日付けの文書により、各加盟団体長宛および各都道府県・指定都市教育委員会教育長宛に依頼文を発送しました。

推薦にあたっては「表彰要項」「推薦要項」を参照の上、7 月 3 日（月）までに「様式 1～3」に必要事項を記入の上、本連盟宛ご推薦いただくこととなっております（各種データはHPよりダウンロード可）。

<http://www.zenshi.jp/korosha.html>

<表彰の基準>

(1) 次の各号いずれかに該当すること。

- 多年にわたり、社会教育における地域の視聴覚教育実践、普及または研究開発に努力し、視聴覚教育の振興に多大な貢献をした者
- 全国または地域の社会教育における視聴覚教育関係団体において、その活動の推進、運営の改善に大きく貢献をした者

(2) 社会教育における視聴覚教育の振興に

携わった年数が通算 10 年以上あること。

(3) 年齢が 50 歳以上の者であること。

<候補者推薦対象の「業務」、「活動」>

- ① 視聴覚教育行政の専門業務
- ② 視聴覚センター・ライブラリーまたは相当施設の運営
- ③ 視聴覚教育関係施設における資料制作や収集、保管、調査研究、展示、教育活動等
- ④ 視聴覚教育に関する意識の高揚、啓発及び活動の推進
- ⑤ 視聴覚活動団体の運営と活動の推進
- ⑥ 社会教育活動におけるボランティアの育成またはボランティア活動の推進

<表彰について>

視聴覚教育総合全国大会の時期に合わせて行う。今年度の大会は令和5年 11 月 11 日（土）にオンラインで開催のため、同大会の全体会にて各団体ごとに功労者の紹介を行う予定。

▽令和5年度 専門委員について

全視連の事業を協力・推進いただく専門委員制度は、平成13年度から設けたもので、全国をブロック別に分け委員を選出し、今年度は下記の9名の方々に就任いただきました。

＜専門委員長＞

▽村上長彦（全国視聴覚教育連盟専門委員長）

＜副専門委員長＞

▽丸山裕輔（新潟県五泉市立愛宕小学校教諭）

＜専門委員＞

▽高橋敏幸（茨城県阿見町立竹来中学校講師）

▽本多和宏（千葉県総合教育センター）

▽間宮智也（仙台市教育局生涯学習課）

▽山本 淳（岩手県教育委員会事務局盛岡教育事務所）

▽石橋俊之（埼玉県春日部市視聴覚センター）

▽小柳真一（栃木県総合教育センター）

▽高見晴彦（兵庫県丹波篠山市視聴覚ライブラリー）

（アンダーライン新規就任）

▽「視聴覚センター・ライブラリー一覧〈令和4年度版〉」を読む

—視聴覚センター・ライブラリーの現況と傾向—

各都道府県教育委員会及び視聴覚教育関連施設の協力を頂き「視聴覚センター・ライブラリー一覧-令和4年度版-」が、(一財)日本視聴覚教育協会より昨年12月に刊行されました（A4判・81頁 2,750円）。

そこで、同一覧を基に、視聴覚センター・ライブラリーの現状や傾向について読み取ってみました。新型コロナウイルス感染症対策として、社会教育におけるテレワークやオンライン学習等の普及は、視聴覚センター・ライブラリーにも新たな方向性が希求される時代に入っ

ています。

視聴覚センター・ライブラリーの現況や傾向を読み取る視点として、視聴覚センター・ライブラリーの設置状況や人的体制及び財政状況、教材提供及び制作機能としての市販教材保有数及び貸出状況、自作教材保有数とHPの有無、ボランティアの活動、さらに研修・講習実施状況機能等を中心に読み取って見ました。

詳細については、月刊「視聴覚教育」令和5年3月号の記事（全8頁）を下記よりダウンロードの上、参照願います。

＜月刊「視聴覚教育」令和5年3月号＞

<http://upl.javea.or.jp/file/upload.cgi?get=00449>

＜視聴覚センター・ライブラリー一覧HP＞

<https://www.javea.or.jp/pub/lib.html>



▽2/28 視聴覚センター・ライブラリー担当者研修会を実施

令和5年2月28日(火)に、オンラインで、「視聴覚センター・ライブラリー担当者研修会」を開催しました。講師に、富山大学大学院教職実践開発研究科の長谷川春生准教授をお迎えしました。研修会では、講演の後に、参加者からの質疑を含めた情報交換会を行い、北は北海道から南は沖縄まで、全国各地の視聴覚センター・ライブラリーや図書館の職員、学校教員、県視聴覚教育振興会の方々からご参会いただいた研修会の概要を報告します。

【1】講演会

講師の長谷川先生ご自身が、かつて中学校教員時代に、16ミリ映写機操作技術認定講習会を受講されたエピソードから講演が始まりました。学びを変える手段として、ICTの活用に着目することを、「令和の日本型学校教育」を通して説明が行われました。「教育の情報化に関する手引」からは、社会における情報化の急速な進展と教育の情報化の背景から、情報教育や教科指導におけるICT活用の経緯のお話があり、講演の前半では、GIGAスクール構想の枠組や基本的な考え方を解説いただきました。

講演の後半では、GIGAスクールの取り組みの実践例を、授業風景の写真や動画を交えながら、紹介いただきました。附属小学校における教育実習の社会科授業は、タブレット端末（以下、端末）や大型テレビを問題解決の手段として活用する事例です。学習方法を児童が自己選択する場面の説明もありました。公立小学校の事例では、教科や特別活動の実践を紹介いただきました。算数科の「単元内自由進度学習」は、自分に合った学習の仕方を見つけて、端末を活用する実践です。問題のビデオを視聴したり、自己の学習表を作成したりする工夫がみられました。小型複合機を利用して、問題プリントを個に応じて児童が主体的に複製するなど、紙（アナログ）との組み合わせの場面もありまし

た。端末とプロジェクターを活用する体育科のセストボールの授業では、パスの仕方や方法、ナイスプレー集を動画にまとめ提示する場面がありました。動画をスローに編集したり、矢印や囲みを挿入したりするなど機能が活かされていました。係活動に関する研究では、アンケート作成や投稿機能といった1人1台端末とクラウドを活用した実践の分析がありました。ICTの特徴と直接児童同士が交流するリアルな活動とを相互に関連させることも、実践研究の概要や結果から教示いただきました。

講演から、個別最適な学びと協働的な学びの実現にICTを活用する数々の取り組みを理解することができ、ICTが子どもたちの文房具として活用されているGIGAスクール構想の具現化された実践モデルであることを提示いただきました。

【2】情報交換会

「1人1台端末導入後のGIGAスクールの進展について聴講できて良かった」「ICT活用の指導法を幼児教育や社会教育にも活かしていきたい」といった感想が出されました。端末を活用する静止画や動画撮影といった映像表現法に、映画教育・視聴覚教育の知見が活かされるのではないかという意見交換をしました。ICTと活字メディアとの組み合わせ効果を高めるために、司書と連携しながら、図書館の利用法を指導していくことも大切な点



視聴覚センター・ライブラリー担当者研修会「GIGAスクールの取り組みと視聴覚センター・ライブラリー」

であると、講師から助言いただきました。

【3】閉会の挨拶

全国視聴覚教育連盟・専門委員会の村上長彦委員長が、講師への御礼と閉会の挨拶をしました。全国各地から参加できるオンライン

の利点、ご講演での GIGA スクールの取り組みを生涯学習にも活かしていく視点に言及して、研修会を閉じました。

（報告：全国視聴覚教育連盟副専門委員長・丸山裕輔）

▽えすけーぶ

最近の AI 技術の進歩は目覚ましく、将棋の世界での AI の活躍は将棋ファンのみならず多くの人が驚きをもって見えています。

さらに画像生成や論文執筆、翻訳、イベント企画などでも AI が活用され、AI が作成した絵が絵画コンクールで優勝するということが起こっているそうです。

そんな中、2023 年 3 月にアメリカの著作権局が AI で生成した画像の著作権登録についてのガイドラインを発表したというニュースがありました。絵画や本、音楽といったコンテンツの著作権登録を管轄している政府機関が発表したガイドラインでは、「AI が自動生成したコンテンツは原則、著作権が認められないが、AI と人間が協働したコンテンツで、人間の創造力が反映された部分には著作権の保護が及びとし、登録申請の際に「AI が自動生成した部分」と「人間が創作した部分」を分けて明記するよう求めている。」そうです。

（ITmedia NEWS 2023 年 03 月 22 日 17 時 26 分 公開）

日本では、制作された時点で著作権が発生し、侵害された場合に裁判を起こすことができるのに対して、アメリカでは制作された時点で著作権が発生するものの、登録しないと訴訟はできない仕組みになっています。AI による画像自動生成サービスである「Midjourney」を使って作られた漫画の著作権登録をめぐる騒動になっており、そのた

めにガイドラインが作られたようです。

「Midjourney」を始めとした AI ソフトのテキスト版である ChatGPT が非常な速さで普及が進んでいます。登録すれば無料で利用することができ、日本語も利用できます。単に調べ物をするだけでなく、結果の要約やまとめも作成してくれます。試しに「16 ミリ映画の歴史と現状をまとめて」という問いをテキスト入力したら、「16 ミリ映画は、16 ミリメートルのフィルムを使用して制作される映画のこと」から始まり、「1980 年代以降、ビデオテープや DVD などのデジタルメディアの普及により、16 ミリ映画の需要は減少し、製造も停止」された歴史と「16 ミリ映画は映画製作者や映画愛好家の熱意に支えられ、現在でも一定の人気を保っていますが、デジタル技術の発展により、その需要や製造は限定的である」という現状までをまとめた文章が回答されました。

もう映像教材の作成にも AI が活用される時代になってきているといえますが、プライバシーの問題でイタリアで ChatGPT の使用が禁止されたり、大学では論文作成に ChatGPT の使用が禁止される例が出てきているなど、問題も抱えています。AI を使いこなすのは私たち一人一人であるということをお忘れずに、有効な AI の活用を目指していきたいものです。（T. M）

全国視聴覚教育連盟

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-10-11 虎ノ門 PF ビル

TEL : 03-3431-2186 / Fax : 03-3431-2192

HP : <http://www.zenshi.jp/>

Mail : info@zenshi.jp

東映 教育ソフト Line-up!

家庭・保育

「映像で学ぶ 幼児の発達と生活シリーズ」全3巻

第1巻 幼児の心身の発達(24分)

乳幼児の発達がどのような過程で進んでいくのか、体の発達と心の発達、2つの視点で解説します。

第2巻 幼児の生活の特徴と家族の役割(23分)

乳幼児期の子供の生活の特徴と家族の役割について解説します。

第3巻 幼児と遊び(20分)

乳幼児期の子供の姿を見ながら、「遊び」の特徴や意味について解説します。



各巻 72,600円(税込) 3巻セット 198,000円(税込)
 学校特別価格 36,300円(税込) 学校特別価格 99,000円(税込)

道徳・特別活動・防犯

「スマホは情報モラルが大切」全2巻

第1巻 ネットいじめをしない! SNSでの出会いに気をつけよう!(25分)

第2巻 もう一度よく考えよう! 写真や動画の投稿(18分)

1巻で「ネットいじめ」「SNSでの出会い」、2巻で「個人情報流出」「炎上」をテーマとして取り上げ、それぞれドラマ編と解説編で構成しています。スマホを使ってSNSを利用するには、情報モラルを身につけ、よく考えた上でメッセージや写真や動画を投稿することが何よりも大切であることを伝えます。

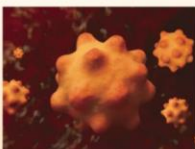
各巻 72,600円(税込) 2巻セット 132,000円(税込)
 学校特別価格 36,300円(税込) 学校特別価格 66,000円(税込)



特別活動・保健体育

より一歩踏み込んだ 新型コロナウイルス感染予防行動へ

新型コロナウイルスは、一人一人による感染予防行動が重要になってきます。一歩踏み込んだ新型コロナウイルス感染対策について学ぶことができる教材です。



監修：愛知医科大学

救急診療部・救命救急科

教授 加納 秀記 医師

株式会社イーイング

(16分) 72,600円(税込)
 学校特別価格 36,300円(税込)

人権・情報モラル啓発

スマイリーキクチと考える インターネットの正しい使い方

ネット上の誹謗中傷の被害者にも加害者にならないためにはどうすればよいかを、実際に被害を受けたスマイリーキクチさんが、小学生向けに解説した作品です。



字幕・副音声版付き

(16分) 72,600円(税込)
 学校特別価格 36,300円(税込)

お問い合わせ・チラシ請求は

☎ 03 (3535) 3631 FAX03 (3535) 3632



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17

予告編
 配信中

<https://www.toei.co.jp/edu/>

教育映像

検索

●学校向け特別価格もございますので、お気軽にお問い合わせください。

<http://www.toei.co.jp/edu/>